

議案第1号

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人ふたば園

社会福祉法人ふたば園（法人総括）

令和4年度事業計画に係る概況について報告

(1) 新規事業

萩市障害者支援施設さんみ苑の従たる施設整備に係る用地については、三見小学校跡地（萩市三見字中内免3546番14 2,973㎡）を候補地とし、令和4年10月、萩市に無償貸与の要望書を提出し了解された。その後、11月には当該用地の測量を行うとともに、設計業者と建物の基本設計に係る契約を締結した。

令和5年3月には、当該用地のボーリング調査を行うとともに、用地造成工事のための設計業務についても発注した。

設計業者とは年度内に6回の打ち合わせ協議を行ない、令和5年6月には基本設計が完了する予定である。施設の規模は、鉄骨造 平屋建て 延べ床面積 約800㎡となる見込みである。

なお、並行して、地域の団体及び地元町内会に対し施設整備の概要説明を行ない、理解と協力をお願いした。

(2) 継続事業について<各事業拠点別 事業報告 参照>

(3) 感染症対策

令和4年1月18日、新型コロナウイルスについて、ふたば園で最初の感染者を確認した。行政の指導や基準を遵守するとともに、行動制限などは行政の基準より厳しい内容を法人独自で定めて遵守した。しかし、5月より感染が拡大し12月までの8か月間で90人（職員29人、利用者61人）の感染を確認し、3月末までに120人（職員40人、利用者80人）となった。

1月以降、感染者は激減しており、3月13日からはマスクの着用について個人の判断が基本となりましたが、ふたば園では従前どおりの対応を継続し、引き続き感染予防に努めている。

なお、感染状況については迅速に行政機関、関係機関、利用者、保護者に連絡するとともに、ホームページ上においても情報公開を行った。

(4) 経営計画

a 職員への任用替え

- ・令和4年4月1日に準職員から1名、契約職員から2名、パート職員から1名の合計4名の職員を正職員へ任用替えし、外部から1名の新規採用をおこなった。

また、令和5年4月1日付で新規採用する者として9月に採用試験を実施し、萩光塩高等学校より1名（応募者数1名）を合格とした。また令和5年1月には社会人枠採用として外部登用試験を実施し、2名（受験者数2名）を合格とした。

b 人材確保について

- ・令和4年度の新規採用（内部登用除）・退職は、以下のとおりである。

採用

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
さんみ苑	1			2	3名
からふる		1	1	4	6名
なないろ			1	3	4名
合 計	1名	1名	2名	9名	13名

退職

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
本部				1名	1名
からふる				3名	3名
なないろ			2名	3名	5名
ほっとわーく				1名	1名
さんみ苑		1名	1名	1名	3名
むたがはら GH			1名		1名
合 計	0名	1名	4名	9名	13名

職員数の推移状況は、以下のとおりであった。

	合計	正職員	準職員	再雇用職員	契約職員	パート職員
R3	209人	64人	5人	6人	33人	101人
R4	208人	68人	8人	6人	26人	100人

c 人事労務管理制度の構築について

- ・職員就業規則、給与規程等、各種規則規程を見直し、役割や人材像を

明確化した。新たな有給制度の創設や、賃金制度の改定を行い、令和4年度の運用を実施した。

d 施設整備について

・萩市椿東3150-8 メゾン八江萩 5部屋を借り上げ障害者グループホームとしての整備を行った。(令和5年5月1日運用開始)

e その他事項

・令和5年2月19日に千春楽 味楽亭においてふたば園開設50周年記念式典を挙行了した。

(5) 職員研修について

a 法人内部研修

・法人の就業規則について(5月 11月) リーダー研修(年8回) 虐待研修(6月) ふたば園カフェ(年4回) コミュニケーション研修(8月) メンタルヘルス研修(12月)

※各研修についてはズームを利用し、各事業所や、自宅においても研修を受けられるよう工夫した。職員間のコミュニケーションが事業所内外を問わず円滑に図れるようふたば園カフェを開催した。

b 各種外部研修

・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主には県内で開催される各種研修を中心に感染状況を注視しながら参加した。

(6) 役員会の開催状況

理事会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	令和4年6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告及び令和3年度決算認定について ・令和4年度第1次補正予算案について ・就業規則の一部変更について ・育児・介護休業等に関する規定の一部変更について ・令和4年度第1回評議員会の開催について
第2回	令和5年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業計画案及び収支予算案について ・経理規程の一部変更について ・組織規程の一部変更について ・職員就業規則の一部変更について ・令和4年度第2回評議員会の開催について

評議員会

開催数	開催年月日	議 題
第 1 回	令和 4 年 6 月 2 8 日	・ 令和 3 年度事業報告及び令和 3 年度決算認定について ・ 令和 4 年度第 1 次補正予算案について
第 2 回	令和 5 年 3 月 2 4 日	・ 令和 5 年度事業計画案及び収支予算案について

(7) 監 査

- ・ 令和 3 年度 決算監査（令和 4 年 5 月 2 6 日実施）

(8) 会議開催

a 施設長会議

毎月の定例会議と、必要に応じ随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、コロナ対策や施設整備、人事について協議を重ねた。

b 管理職務者会議

月 1 回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受けて協議を行った。

c その他

事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

(9) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営した。

(10) 地域活動

- ・ ふたば園まつり、ほほえみ大運動会については新型コロナ感染拡大防止のため令和 4 年度も中止とした。
- ・ さんみ地域の公民館祭りについては、一部開催の運びとなり、高齢部門が相談ブースの開設を行った。
- ・ 社会福祉協議会が主催する地域公益活動推進協議会に参加した。
- ・ 法人が管理する施設設備等の活用推進について
からふる内のおもちゃ図書館の地域開放については感染拡大に十分配慮しながら継続した。
土原事業所の会議室を地域活動団体に貸し出した。

(11) 中長期計画

- ・ 新規事業を参照

ふたば園障害者就業・生活支援センターほっとわーく

重点事業方針取組結果（総括）

令和4年度は当初引き続きコロナの影響から企業内に支援に入れられない事が多くあったが、期末から徐々に企業の中に入り支援できるケースが増えてきた。

一般就労件数は前年度より微増した。職場実習は前年と比較し大幅に増えた。

当事者支援の交流会を計4回実施した。悩みを話し合う企画や4年度初めてウォーキングを兼ねた企画を実施し多くの参加をいただいた。

企業関係の研修会議「懇話会」では、萩・長門の商工会議所様にも協力を依頼しチラシや季刊誌に開催の告知をしていただいた。パネルディスカッション方式を採用し、障がい者就労の促進に向けた分かりやすい講義内容であった。

福祉就労関係の研修会議では基調講演とグループワークで、一般就労を目指すためのスキルについて話し合った。

ほっとわーくが主催した上記2つの研修会では、それぞれに違う企業在籍型ジョブコーチを講師としてお招きし実施した。

雇用安定等事業

就業支援担当者2名、職場定着支援担当者1名を配置し支援を行った。

- ・令和4年度、23名の登録者が一般就労に繋がった。求職過程でハローワークへの同行、見学・実習同行等、当事者の主訴に寄り添い支援を行った。
- ・就労継続支援A型を希望する登録者が増えてきており、相談支援事業所と連携するケースが増加した。

生活支援等事業

生活担当者2名を配置し支援を行った。

（支援例）

- ・家族状況が本人の行動に影響を及ぼしている登録者について、相談支援事業所と連携を取りながら家庭訪問を繰り返し、就労意欲の確認と求職同行支援を行った。
- ・長期入院休職中登録者の支援について、家族と状況を確認しながら、また会社とも連絡を取り合っ在職に繋がっている。
- ・意思疎通支援が必要な登録者について、企業を含む関係機関に状況確認をしながら通院同行を行った。

その他報告事項

職員業務研修（主な）

- 中国四国ブロック経験交流会議（Zoom） 4名
- 中四国ワーカー連絡会（Zoom） 3名
- 主任就業支援担当者研修（集合） 1名
- 主任職場定着支援担当者交流会（ZOOM） 1名

広報・啓発活動

- 季刊誌発行 年2回
- 法人HP（新着情報）への行事報告掲載 年8回

萩市障害者生活支援センター ほっとすぺーす

重点事業方針取組結果（総括）

令和4年度は、職員体制が変わり今まで6名だった相談支援専門員が7名でのスタートとなった。ほっとすぺーすでの相談件数は年々増えている状況である。相談の内容としては、本人の居場所の確保としての相談が多く見受けられた年であった。また、本人からの相談というよりは家族からの相談が増えてきているように感じる。

新型コロナウイルスの影響が今年度は職員に広がり、7名の職員中4名の職員が感染してしまう事態となってしまった。2名の職員が同時期に感染したときには、事業所での来客対応や職員の訪問等を制限しながら事業継続を行っていった。幸いにもそれ以上の広がりはなく関係者への影響も出なかった。

令和4年度の新規契約者は児・者合わせて35人。昨年度よりは契約数は減少しているが、相談件数は増えている。

萩市基幹相談支援センター

基幹相談支援センターとして4年が経過した。少しずつ地域の相談支援事業所との連携も行えてきており、今までほっとすぺーすが作り上げてきた土台を元に基幹相談支援センターとして、より一層専門性等を求められていると感じている。基幹相談支援センターが中心となって開催している萩地域相談支援従事者連絡会では各自立支援協議会の動きなどを共有する事や事業所での困難ケースを検討し、相談支援の質の向上を図っている。また、障がい者が高齢期になることで起きる介護保険サービスへの移行や制度の違いなど様々な問題点があることで、どう高齢期に繋げていけばよいか分らず、戸惑う場面が多々ある。それを各々で考えるのではなく障がいも高齢も一緒に協働で考えて行く仕組みづくりをこれからの課題として取り組んでいきたい。また、萩市との連携強化も継続していく。

指定特定相談支援事業

令和4年度特定相談のケース数は305ケース。1人平均50ケース。病院から退院した後の日中活動の提供を相談されるケースや地域生活での支援、就労希望のケースなどが多かった。就労に関してはほっとわーくと連携を図っている。また新型コロナウイルスの影響で、面談や訪問が中々できなかった事で日頃の様子が上手く把握できずモニタリング作成にとっても苦慮した。

指定障害児相談支援事業

年度初めは新規契約が少なかった。発達検査等で療育が必要となったお子さんへのサービス開始時にご両親とほっとすぺーすが連絡を取り合うが、その際によく分からないままほっとすぺーすに連絡をするようにと言われた為、混乱される

ケースが何件か見受けられた。萩市健康増進課へ相談を行い、どのように進めていった方がよいか一緒に考えた。初めての療育という事と子どもの障害需要がご両親にとってとてもデリケートな問題であることから、しっかりとした配慮が必要であることを再度共通認識した。放課後等デイサービスについては、以前より支給量が問題視されていた。それを踏まえ今年、二つの事業所と話し合いを持ち、サービスの更新時などは市町や学校も含め会議を行いサービスの適正化を図っていくこととした。

指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

一般相談はサービスを利用していないが、定期的な訪問や様子確認が必要な方々を対象としている。また、子どもに関しては児童発達支援が終了し、その後サービスを利用しない子ども達も環境が変わった事で配慮が必要となるケースもあるため一般相談として経過を追っている。

地域移行については、利用希望が今年度はなかった。新型コロナウイルスの関係で病院と外部との接触が難しく連携が中々出来なかった。新型コロナウイルス患者の減少が今後見込まれ、病院側と外部との接触が緩和されてくれば、地域移行への動きが出てくると思われる。

その他報告事項

<サービス等利用計画作成対象数>

	令和4年	令和3年	令和2年
指定特定相談支援事業	305人	290人	271人
指定障害児相談支援事業	149人	152人	154人
合計	454人	442人	425人

<サービス等利用計画作成対象数障害別内訳>

*手帳は重複あり

	身体	知的	精神	発達	重心	合計
指定特定相談支援事業	43人	177人	93人	31人	9人	353人
指定障害児相談支援事業	15人	50人	1人	61人	7人	134人
合計	58人	227人	94人	92人	16人	487人

令和4年度相談件数

○相談件数：延べ9,734件

（内訳）電話：5,392 訪問：2,878 来所：982 FAX：7 メール：214 ピア相談：5
その他：194

○相談者数：延べ8,312名

（内訳）本人：2,824 家族：1,645 学校：108 事業所：2,130 保育園：46
幼稚園：28 関係機関：1,518 その他：13

ひじわらグループホーム（共同生活援助事業）

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスが猛威を振る舞う中、利用者を抱えるGHとして、日々感染対策を講じながらサービスの提供を行ってきた。入居している利用者が感染しない為にも、食事の場面は各居室で食べてもらい密を避ける生活を送っていただいた。幸いにも利用者が感染する事はなかったが、濃厚接触者として対応する事例は出た。一週間事業所を休んでいただくなどの対応措置を取らざるを得なかった。窮屈な日常生活を送っている利用者へ少しでも安らいでもらおうと、感染が落ち着いた頃、余暇活動を計画したが、第7派の到来にかかってしまい、実行に移すことが出来なかった。利用状況は各3ホームとも満床が続いている。利用者の身体機能の低下などが見受けられ、階段の昇降は確認が必要となっている。利用者のご家族が亡くなることも増えてきており、家族の高齢化や本人の高齢化、併せて職員の高齢化も目立ってきている。

第2ひじわらほ一む

体験室の利用が、今年度は体験の目的ではなく緊急的な預かりとして受け入れることがあった。柔軟な対応の受け入れを今後も行っていきたい。

第2ひじわらほ一むは二階にあるため、階段の昇降をしないといけないが、階段が急な為、転倒リスクのある利用者については、昇降時の見守りを行う事とした。

ひじわらほ一む

台風時に屋根より雨水が浸水し、利用者の居室に雨漏りがするなど老朽化が進んでいる。夏場には食堂にあったエアコンが壊れてしまい、職員が暑い中、食事提供をしなくてはならない事態が起こってしまった。エアコンはすぐに取り換えてもらえたが、西日が強く差し込む為、窓ガラス前にすのこを置くなど対策を行った。

むたがはらほ一む

駐輪場の設置を行い、自転車とスクーターを置く場所を確保した。駐輪場設置の為駐車場が一区画狭くなったため、利用者が利用している駐車スペースを確保する必要がある。区画線を引き、利用者が一番停めやすい場所と一緒に確認し、それ以外の場所に職員が公用車を停めることとなった。

アパートでのGH支援な為、利用者との接点を持つことが中々できず、利用者のSOSを上手くキャッチできない事態が起こってしまった。利用者が利用して

いる事業所と連携する事で本人の思いに寄り添うなど、関係機関との連携の必要性を改めて感じた。

なお、令和5年5月より、新たに設置された「第2むたがはらほ一む」とともに「むたがはらグループホーム」を形成し、なないろ事業所の所管となった。

令和4年度実績報告

	開所日	定員数	延べ利用日数	実利用者数	利用率	備考
4月	30	16	429	15	89	
5月	31	16	427	15	82	
6月	30	16	445	15	92	
7月	31	16	457	15	92	
8月	31	16	449	16	90	体験1名
9月	30	16	429	15	89	
10月	31	16	440	16	88	体験1名
11月	30	16	455	16	94	体験1名
12月	31	16	448	15	90	
1月	31	16	427	15	90	
2月	28	16	416	15	92	
3月	31	16	463	15	93	

ヘルパーステーション みらい

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスが市内でも蔓延する中、在宅生活の利用者をどのように支えていくのかが大きな課題となった。発熱がある利用者や風邪症状がある利用者への受診の有無、食事の確認などを行い、陽性や濃厚接触者になった場合は訪問を中止せざるを得なかったが、その他はなるべく訪問を行い生活の質の確保に努めた。職員は防護服とゴーグルにフェイスシールド、N95 のマスクを着用し支援を行った。訪問時に本人の様子等を確認し担当の相談員やケアマネにお伝えした。また、職員の状況確認も必要となり、検査キットによる確認を定期的に行うとともに、体調チェックも行いながら日頃の業務に取り組んだ。その結果、新型コロナウイルスに感染する事はなかったが、引き続き、感染対策を行いながら訪問を行っていく。

利用者については新規利用者の獲得を行っていったが、今年度は大きな伸び率はなかった。みらいでお願いしたいとの希望を何件か頂いたが、時間帯が合わずに利用に繋がらなかったケースもある。今後も職員を確保しながら新規利用者の獲得を継続していく。

障害者介護給付事業

居宅介護について、昨年度と比べ大きな伸び率はない。相談支援事業所からの依頼が入った時にはみんなで協議を行い、受けることを大前提として支援の方法を考えて行った。障害特性も考慮しながら支援の統一を図るために、どの職員が入っても本人が混乱しないようにと支援のマニュアルを作成した。

同行援護は、4名の登録者への支援を行った。買い物支援や通院支援が主となっている。

介護保険事業

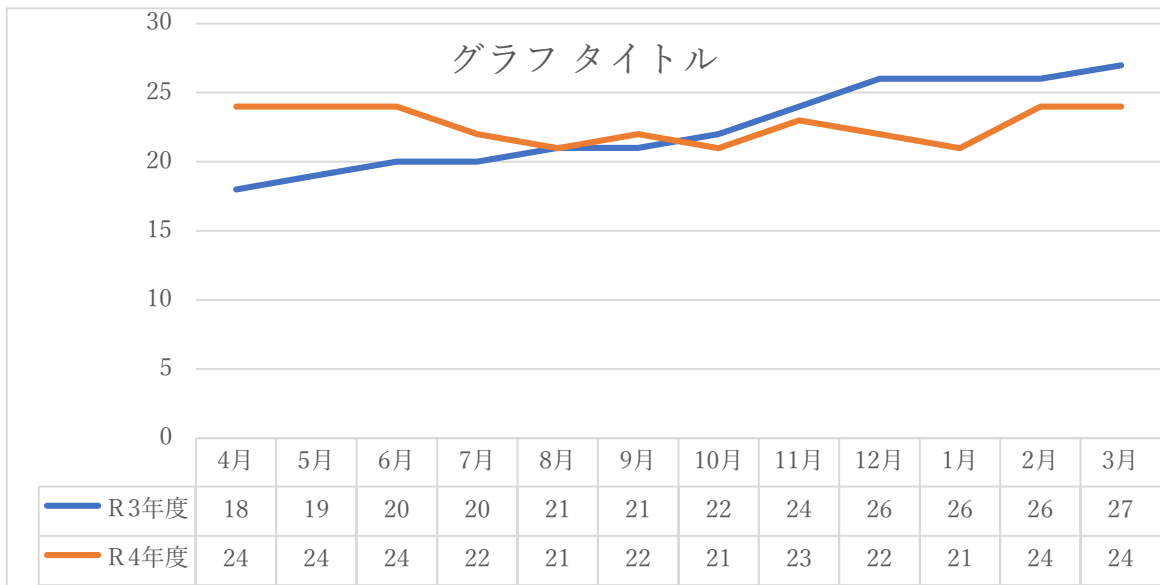
今年度は3名の方が利用されていた。そのうち1名が入院になり、退院後入所となった為終了となった。

地域生活支援事業

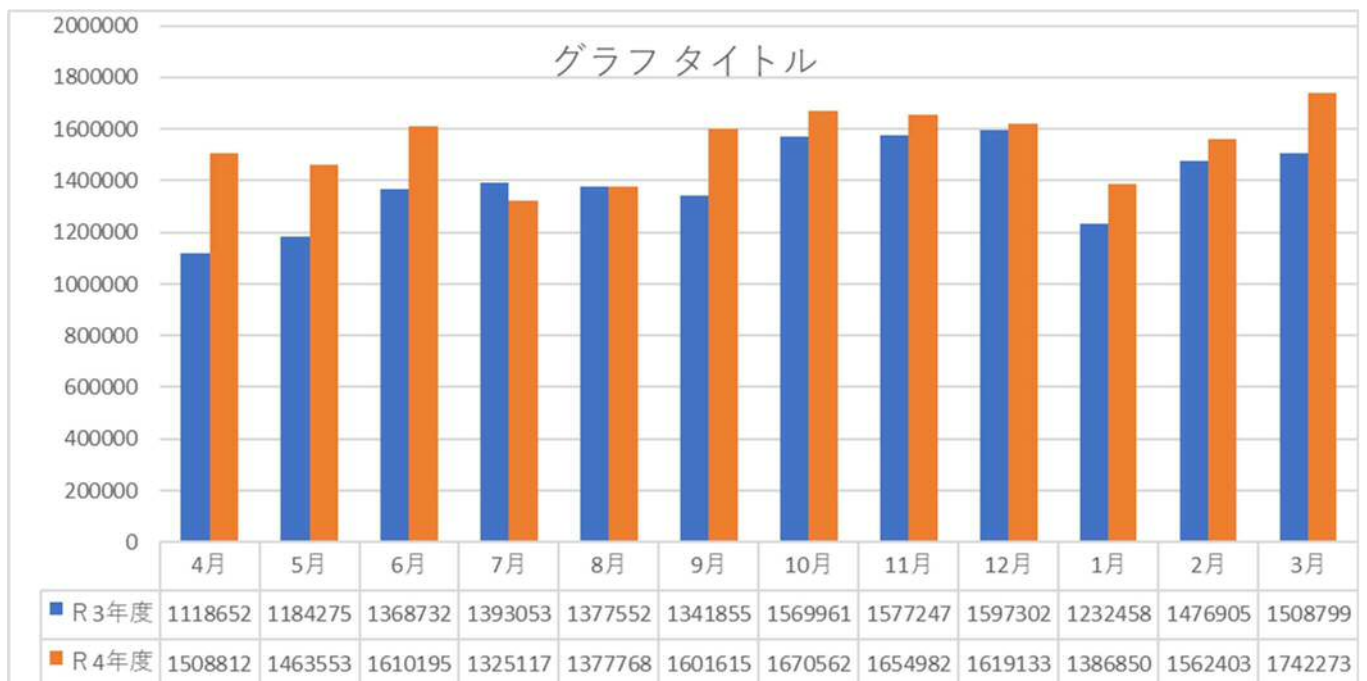
市町の裁量で決まるサービスであるため、本人が移動する際の付き添いや、外出支援、余暇への同行などを利用される方が多かった。

有償サービス

有償サービスとは事業所が独自に行っているサービスであり、今年度初めての取り組みであった。1名の方が定期的な通院の為に使われており、遠方の家族の安心に繋がっている。



月利用者数の比較（障害）



令和3年度と令和4年度の収入一覧

地域活動支援センターふらっと

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスの影響を受け、事業所を閉鎖する事が数回起こってしまっ
た。閉鎖をした理由については、ふらっとを利用している方々のワクチン未接種
が多かった為、広がりを防ぐためでもあった。また仕事をしている方や事業所を
利用している方もいることから関連した広がりがないようにした。そんな中でも
開所している時には定期的に利用される方、卓球やサークル活動を楽しみにされ
ている方などの利用があった。新型コロナウイルスが落ちついた時には卓球バレ
ー大会に参加したり、長門の千畳敷ヘドライブに行くなど、外出活動も取り入れ、
いつもと違う楽しみを味わった。外出活動は参加される方が多く、日頃来られな
い方の参加もあった。活動のマンネリ化もあり、利用率が伸び悩む中のイベント
開催には利用者や職員も楽しい時間を過ごすことが出来た。

利用については、令和3年度は基礎の方が多かったが、令和4年度は強化の方
が増えてきている。基礎だった方が強化になった方もあった。ただ、強化の方の
一日の利用が15人になることは難しく、引き続きの課題となっている。

少しずつふらっとの利用者が増えている中で、今の活動場所が手狭になってき
ている。下表を見ると、一日の平均利用が強化のみでも7名はある。ふらっとの
部屋は6名来られるといっぱいになってしまうため、今は会議室を臨時的に使用
させてもらいながら対応しているが、今後利用者が増えてきたら活動場所を考え
ていく必要がある。

R4年度					
	利用人数（人）	開所日数 （日）	平均人数（人） ※強化のみ （時間外含む）	登録者数	平均利用人数 （全体）
R4.4	174(基礎33 強化119 時間外22)	20	7	79	8.7
R4.5	173(基礎27 強化131 時間外15)	17	8.5	80	10.1
R4.6	231(基礎30 強化184 時間外17)	22	9.1	80	10.5
R4.7	202(基礎30 強化159 時間外13)	20	8.6	80	10.1
R4.8	198(基礎33 強化154 時間外11)	22	7.5	81	9
R4.9	162(基礎22 強化134 時間外6)	19	7.3	83	8.5
R4.10	178(基礎29 強化144 時間外5)	20	7.4	83	8.9
R4.11	179(基礎25 強化144 時間外10)	20	7.7	84	9
R4.12	179(基礎24 強化147 時間外8)	20	7.7	85	8.9
R5.1	123(基礎15 強化104 時間外4)	15	7.2	85	8.2
R5.2	169(基礎24 強化140 時間外5)	19	7.6	85	8.8
R5.3	220(基礎31 強化180 時間外9)	22	8.5	85	10

子ども発達支援センターからふる

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスの影響を受け、休園措置や行事の延期や縮小をせざるを得ない状況があったが、できる限りの予防策を講じながら障害や発達に弱さのある児童への発達支援や、家族に対してサポートを行う家庭支援、地域の中でセンター的な役割を果たす地域支援に取り組み、子どもたちや保護者、地域の関係機関から信頼を得られるように事業の充実を図るように努めた。

定期的に地域開放しているおもちゃ図書館は、利用される方が不特定多数であることから、感染対策が十分行き届かないため休館することが多かった。

関係機関や地域との連携や、発達の気になる児童への早期からの支援の必要性の理解が進んでおり、子どもの出生率は減少傾向にあるものの、当センターの児童発達支援事業については、ほぼ例年並みの契約数となった。萩市が行う五歳児相談後の受け入れが難しく、後半は待機児童が増える傾向が続いている。保育所等訪問支援事業については、年度当初は契約者が少ないが、五歳児相談会后（秋以降）から契約者が増加する傾向が近年続いている。

児童発達支援センターの役割として、児童発達支援を行うほか、施設の有する専門性を活かし地域支援を担うことも期待されており、サービスの質やサービス提供の在り方の検討、併せて職員の専門性を高めていくことが今後も課題である。

児童発達支援事業

- ・一人一人の子どもの生育歴や障害特性、家庭状況等を細やかに情報収集して子どもや保護者との信頼関係を築きながら丁寧な支援を行うように努めた。
- ・面談や親子療育等の機会を通して保護者と積極的に話す機会をつくり、子育ての不安軽減を図り、安心して前向きに子育てに取り組むことができるように努めた。
- ・年長児を対象に、就学説明会や学校訪問、学校体験の機会を提供した。また、引継ぎ資料を作成し、就学先の担当者に引継ぎを行う等、積極的な連携を図り、安心して親子が就学を迎えることができるよう取り組んだ。
- ・コロナ禍ではあったが、療育や行事等についてはできるだけ中止はせず、延期や縮小しながらも可能な限り予防策を講じて実施した。療育メニューを工夫したり環境調整しながら、利用児童や保護者に安心して利用していただけるように努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症等の情報収集を行い、メール配信ツールを導入してタイムリーに保護者に情報提供を行い、感染の拡大防止に努めた
- ・毎月事業所内研修やオンライン研修等を活用して職員の資質向上に努めた。

- ・おもちゃ図書館は新型コロナウイルスの感染状況により休館することも多かったが、子育て相談や手作りおもちゃの会など地域の子育て支援に努めた。

保育所等訪問支援事業

- ・訪問先の保育園等にも事業が理解されたことで、担当者同士の情報交換の機会が増え支援の充実につながった。
- ・担当者一人が支援を行うため、支援方法について定期的にケース会議をもち、偏った支援にならないように多方面から分析を行い、支援内容の充実を図った。
- ・発達特性も様々で、その場で臨機応変に支援を行えるための力量が求められることから、職員の専門性を高めていくことが課題となる。

《委託事業》

山口県在宅障害児療育支援事業

- ① 在宅支援外来療育等支援事業・・・187回
 - * 1歳半健診、3歳半健診後のフォローの場として親子教室を開催したり、専門職による個別相談や指導を行った。今年度より臨床心理士による発達検査も実施した。
- ② 施設支援一般指導事業・・・42回
 - * 保育園等の施設に訪問して、発達が気になる子どもへの支援方法について、職員に対して助言等を行った。

萩市発達障害児地域支援体制強化事業

- ① 8月、2月、3月に発達障害児に関わる方を支援者対象の講演会を実施した。
- ② 10～12月毎月1回の支援者対象の症例検討会を実施した。
- ③ 年間6回ペアレントメンターグループ相談会を実施した。

阿武町母子保健事業

- ① 乳幼児健診・・・6回
 - ② 発達支援教室・・・9回
 - ③ 保育所等訪問支援・・・7回
 - ④ 子育て相談・・・1回
- * 令和4年度で阿武町母子保健事業は終了。

日中一時支援事業

- ・からふるのみ利用されている児童を対象に受け入れを行なった。定員5名に対して10名の契約があり、日中一時担当職員を配置して対応した。

令和4年度利用実績 児童発達支援事業：定員30名 * ()はR3年度実績

	契約数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	54 (61)	542 (661)	18 (19)	30.1 (34.7)	100.4	86.7
5月	57 (61)	568 (590)	17 (17)	33.4 (32.8)	111.4	101.8
6月	58 (60)	708 (729)	21 (21)	33.7 (34.7)	112.4	97.1
7月	58 (59)	632 (643)	20 (20)	31.6 (33.8)	105.3	93.5
8月	59 (60)	445 (616)	20 (20)	22.3 (30.8)	74.2	72.4
9月	58 (59)	578 (671)	19 (20)	30.4 (33.6)	101.4	90.5
10月	60 (59)	524 (701)	18 (21)	29.1 (33.4)	97	87.1
11月	61 (59)	648 (713)	21 (21)	30.9 (34.0)	102.9	90.9
12月	62 (60)	503 (657)	16 (19)	31.4 (34.6)	104.8	90.8
1月	62 (60)	628 (395)	19 (18)	33.1 (21.9)	110.2	151.1
2月	63 (60)	668 (268)	19 (15)	35.2 (17.9)	117.2	196.6
3月	63 (60)	633 (385)	21 (15)	30.1 (25.7)	100.5	117.1

- * 新型コロナの影響により利用が減る月もあったが、稼働率の年平均は103%で大幅な減少はなかった。
- * 幼児期の児童が対象であることから、体調不良等での欠席や、併行利用が多いことから保育園や幼稚園の行事等の影響を受けやすい状況にある。
- * 定員に対して契約者数が2倍であることと、そのうちの半数以上は併行利用であるため他機関との連携や就学支援など職員の業務量や事務量はかなり多い状況である。

令和4年度利用実績 保育所等訪問支援事業 * ()はR3年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	前年度比
4月	6 (18)	6 (18)	9 (30)	30
5月	8 (18)	8 (18)	12 (31)	38.7
6月	9 (17)	9 (17)	12 (29)	41.4
7月	11 (19)	11 (19)	16 (31)	51.6
8月	12 (18)	8 (16)	12 (25)	48
9月	12 (19)	12 (19)	20 (32)	62.5
10月	14 (19)	8 (19)	8 (33)	24.2
11月	18 (21)	15 (20)	26 (33)	78.8
12月	19 (23)	16 (22)	25 (34)	73.5
1月	18 (23)	16 (16)	30 (25)	120
2月	18 (23)	16 (15)	30 (23)	130.4
3月	18 (23)	17 (18)	33 (25)	132

- * 10月は新型コロナの影響により大幅な減少。
- * R3年度より利用希望の増加が見込めず訪問支援員は1名の配置とした。
- * 訪問先の行事や保護者の都合で利用調整が難しく支援提供の頻度が減ることもあった。

放課後等デイサービスのびっこくらぶ・えーる

重点事業方針取組結果（総括）

新型コロナウイルスの影響により、今年度も活動の場所が限定され様々な体験活動を十分に行うことが難しい状況であった。その中でも、できる限りの感染予防策を講じながら発達年齢に応じた支援の充実に重点を置き、それぞれの事業所で子どもたちがのびのびと楽しく安心して過ごせるように、療育支援・余暇支援・家庭支援に取り組んだ。利用児童の障害特性や家庭状況も様々であることから、関係機関である学校と連携して情報共有を行いながら、個々の発達状況に応じた療育支援や交友関係の支援を行った。

今年度も、のびっこくらぶ（小学生対象）は例年並みの契約者数及び稼働率を確保できているが、えーる（中高生対象）は共に低迷しており、今後のサービスの在り方について検討が必要と考える。

のびっこくらぶ（小学生対象）

- ・利用児童が自発的にかつ意欲的に活動に取り組むことができるように、環境を整え視覚支援を行うことで、課題にも落ち着いて取り組むことができるようになった。
- ・トラブルも多いが友達同士で励ましあったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲が見られるようになった。
- ・手洗いやマスクの着用などの感染対策への意識づけを継続して取り組んだ。
- ・萩総合支援学校や市内の小学校、児童クラブなどの関係機関と定期的に情報交換を行いながら支援を行った。

えーる（中高生対象）

- ・環境を整え視覚支援を行うことで、児童が自発的かつ意欲的に活動に取り組める場面が増えてきた。
- ・将来を見据えてお仕事活動を取り入れるなど、目的をもって積極的に活動に取り組めるように努めた。
- ・新型コロナウイルスの感染症の影響により、パン教室や合唱などの活動を休止した。また、地域で使える社会資源も限られた状況ではあったが、活動内容がマンネリ化しないように利用児童が楽しめる活動の工夫に努めた。
- ・手洗いやマスクの着用などの感染対策への意識づけを継続して取り組んだ。
- ・萩総合支援学校や関係機関と定期的に情報交換を行ったり、必要に応じてケース会議を行う等、連携の強化を図りながら支援を行った。

令和4年度利用実績 のびっこくらぶ：定員10名

* () はR3年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	51 (50)	46 (45)	260(259)	24 (23)	10.8 (11.3)	108.3	95.6
5月	51(50)	49 (46)	248 (249)	23 (23)	10.7 (10.8)	107.8	99
6月	54(50)	50 (46)	272 (275)	25 (25)	10.8 (11.0)	108.8	98
7月	55(51)	49 (48)	258 (299)	23 (21)	11.2 (11.4)	112.2	98.2
8月	53 (52)	47 (49)	164 (214)	20 (21)	8.2 (10.2)	82	80.4
9月	51 (52)	42 (46)	194 (263)	22 (23)	8.8 (11.4)	88.2	77.2
10月	49(52)	43 (43)	219 (270)	23 (25)	9.5 (10.4)	95.2	91.3
11月	48 (52)	43 (44)	233 (242)	24 (24)	9.7 (10.1)	97.1	96
12月	48 (52)	44 (46)	226 (254)	23 (23)	9.8 (11.0)	98.3	89.1
1月	48 (52)	40 (40)	238 (167)	22 (21)	10.8 (8.4)	108.2	128.6
2月	48 (52)	42 (39)	236 (174)	22 (19)	10.7 (9.2)	107.3	118.5
3月	48 (52)	39 (43)	249 (205)	23 (23)	10.8 (9.8)	108.3	110.2

* 8～9月は新型コロナの影響により利用が減ったが、稼働率の年平均は102.1%で大幅な減少はなかった。

* 昨年度同様、定員に対して利用希望が多く毎月利用調整を行った。

* 新型コロナに関する急な欠席が目立った。

令和4年度利用実績 えーる：定員10名

* () はR3年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率 (%)	前年比
4月	17 (20)	14 (16)	118 (153)	24 (23)	4.9 (6.7)	49.2	73.1
5月	18 (20)	15 (16)	116 (142)	22 (23)	5.2 (6.2)	52.7	83.9
6月	19 (20)	16 (16)	130 (134)	25 (25)	5.2 (5.4)	52	96.3
7月	20 (20)	16 (16)	142 (135)	23 (21)	6.1 (6.5)	61.7	93.8
8月	21 (20)	18 (16)	136 (122)	22 (21)	6.1 (5.8)	61.8	105.2
9月	21 (20)	17 (16)	105 (126)	21 (23)	5.0 (5.5)	50	90.9
10月	21 (20)	17 (16)	123 (119)	25 (25)	4.9 (4.8)	49.2	102.1
11月	21 (20)	17 (16)	136 (137)	24 (24)	5.6 (5.7)	56.7	98.2
12月	21 (20)	17 (16)	141 (123)	23 (23)	6.1 (5.3)	61.3	115.1
1月	21 (20)	17 (16)	121 (115)	22 (21)	5.5 (5.0)	55	110
2月	21 (20)	17 (16)	131 (99)	22 (19)	5.9 (5.2)	59.5	113.5
3月	21 (20)	17 (16)	156 (120)	23 (23)	6.7 (5.2)	67.8	128.4

* 月によってばらつきはあるが稼働率の年平均は56.3%で昨年同様であった。

* 利用者同士の関係性等により安全面を考慮して、その場合のみ利用調整を行った

* 新型コロナに関する急な欠席が目立った。

なないろ

重点事業方針取組結果（総括）

1. 新しい生活様式の取り込みと地域とのつながり

コロナ禍ではありましたが、喫茶の営業、菓子販売、委託作業の継続、野菜販売等をできる限り継続して行いました。生活介護では、利用者とマスクやフェイスシールドの着用について取り組み、「地域の中で安心して生活ができること」を目指してきました。今では、ほとんどの利用者が短時間のマスクやフェイスシールドの着用ができるようになりました。

また、就労継続支援 B 型では、消毒や検温を始めとするなないろでの感染予防対策を写真に撮って委託先にお伝えすることで、安心して仕事の継続をしていただくことができました。

就労継続支援 A 型では「山口安心飲食店」の制度を取り入れ、お客様により安心してきていただく仕組みをとったことで、コロナ禍にも売り上げが大きく落ちることなく営業することができました。

2. 利用者主体を考えた支援

それぞれの事業で利用者主体を考え実践しました。生活介護では、「時間がかかっても自分で決めて行動することを支援しよう」、就労継続支援では「自分たちがやってみたい作業をしよう」として調査し、できるだけ本人の希望の作業に取り組んでいただきました。また、就労継続支援 A 型では、積極性の向上を念頭に、自分から「〇〇します」を言えるように支援しました。それぞれの自立（自律）に向けた支援として少しずつ成果は見えてきていますが、「待つ」ということが「放置」や「無視」に見えるという部分もあり、課題を残していますので、方針を継続し「待ち方」を考えたり、「選択制」などを取り入れたりして、より利用されている方の自立を目指していきたいと考えています。

3. チーム力と専門性

なないろハンドブックを作り、できる限りのマニュアル化と年間を通して「新人教育」に力を入れました。月 1 回の新任研修や施設内での事業交流を行いました。研修には異動者と年数の近い先輩も一緒に参加してもらったことで、「分からない」の共有やチームとしての支え合いの構築ができました。

就労継続 A 型事業

体調不良から利用が安定せず、長期休業をされる利用者が4名ありました。1名は、10月に復帰後から安定して働かれています。他2名は自宅療養と入院、1名は退職されました。利用者を13名に増やしましたが、利用者の休みが多くなったことで次年度の基本単価が下がることとなりました。

コロナ感染が拡大している際にも営業をできるだけ継続しています。しかしながら、物価の高騰により利益を作り出すことの難しさに直面し、今年度は値上げをすることを決定しました。

就労継続 B 型事業

委託作業、菓子販売もできる限りの継続を基本の考えとしたことで、前年度よりも安定して作業を行うことができ、目標工賃の達成には若干届きませんでしたが、工賃変動資金の取り崩しを行わずに同等の工賃を維持することができました。

高齢化に伴い、外作業が難しい利用者が増えています。2名は介護予防教室を併用するなど、利用者の現状にあった支援につなぐことはできていますが、若い人材の確保も課題となっています。工賃の維持と利用率の向上を考えながら、新規の受け入れを検討していきます。

生活介護

2名の方が高齢施設へ移行をされ、その後に退所されました。そのことにより、利用率が下がっています。新規利用者の受け入れを検討することと致します。しかし、年齢とともに重度化し、支援区分が上がったり、1対1での対応が必要になったりしていることもあり、職員の適正な配置も同時に検討する必要があります。

新型コロナウイルス感染防止のために活動が限られている状況が続いていました。室内でできるレクリエーション活動の充実を行い、手作りの遊具を利用して活動がマンネリ化しないように心がけて支援を行いました。行事の機会を利用してレクリエーションの様子を見て頂いたり、OTによるリハビリのデモンストレーションを実施したりしてご家族の理解に努めました。

就労定着支援

利用者0の状態が継続している状況です。

日中一時支援

現在サービスを利用できていない在宅障害者の家族の緊急時に伴い、一時的な預かりとして日中の支援提供をしました。

その他報告事項

生活介護、就労継続支援B型事業で満足度調査を実施しました。様々なご意見をいただき、職員で協議しました。調査結果と協議して改善していく内容を家族の方に報告いたしました。

就労継続支援A型定員稼働率												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	90%	93%	90%	89%	87%	87%	87%	92%	88%	80%	91%	71%
R4	72%	77%	76%	65%	66%	59%	66%	69%	66%	63%	68%	67%
※定員稼働率が下がっているのはR3.2より定員を10名から13名に増やしたため												
※R4の途中より稼働率が下がっているのは、長期休暇に入っている利用者の増加												
就労継続支援B型定員稼働率												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	148%	139%	148%	139%	134%	144%	145%	148%	140%	131%	117%	122%
R4	121%	117%	122%	115%	106%	118%	113%	109%	111%	107%	114%	115%
※施設外就労者を入れた稼働率												
※赤字は新型コロナウイルスの影響があった月												
※定員稼働率が下がったのは1名の退所と2名の他機関（高齢サービス）の併用が始まったため												
生活介護定員稼働率												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	107%	104%	108%	102%	105%	106%	105%	108%	107%	88%	79%	98%
R4	108%	100%	105%	95%	92%	96%	100%	102%	91%	87%	97%	100%
※赤字は新型コロナウイルスの影響があった月												
※R4.7以降は、高齢サービスを利用している人の併用停止と退所によるもの												

萩市障害者支援施設さんみ苑（指定障害者支援事業）

重点事業方針取組み結果（総括）

「安心と信頼のつながりを」の理念のもと、さんみ苑に関わっているすべての人が笑顔で楽しく幸せを感じることができるよう支援を目指し、以下の取り組みを実践しました。

コロナ感染者の発生に伴う対応について

- ・7月25日（月）に、利用された方の発症をきっかけに、利用者6名、職員1名の集団感染となりました。この間、通所事業を休止し、入所支援事業を優先し、感染拡大防止の観点でのゾーニング対応を実施しました。8月10日の終息宣言までの2週間、感染対策を徹底した結果、それ以上の広がりはありませんでした。

高齢入所者の支援について

- ・高リスクな慢性疾患を抱える利用者2名が同じ時期に誤嚥性肺炎の発症が見られました。それに伴い食事形態や介助や見守りの仕方の変更、支援環境の見直し、緊急時の対応の確認等を実施しました。最終的に、この2名は、数週間毎に入退院を繰り返すようになり、医師の判断で、常時医療が必要な状態（胃ろう・気管切開）となり、退所されました。さんみ苑は、障がい者支援の専門施設で、本来、高齢期を迎える利用者へ適切な視点に関わることに限界があります。今後は、介護保険サービスの対象者になった段階で、必要に応じて、高齢者サービスにつなぎ、高齢期特有の身体的な課題への適切な対応を実施していきたいと思っております。

緊急短期入所事業の継続について

- ・地域の拠点施設として、緊急性の高い方の短期入所を継続しました。

支援体制の構築（専門性の向上）について

- ・令和4年度は、新たな管理者、主任の配置により支援体制の見直しを図りました。職員それぞれに専門性の向上を意識づけた結果、国家資格保有者が6名増加しました。（社会福祉士2名、介護福祉士4名）
これにより、22名の常勤支援員のうち、18名が国家資格保有者となりました。今後も職員が自己研鑽を積み重ねることで、より良い支援を行えるように努めていきます。

令和4年度 事業別利用実績

施設入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	前前年度	前前年度比	備考		
									入院	新規入所	退所
4月	30	850	30	28.3	860	98.8%	836	101.7%			
5月	30	844	31	27.2	879	96%	888	95.0%			
6月	30	825	30	27.5	859	96%	852	96.8%			1
7月	30	826	31	26.6	880	94%	876	94.3%			
8月	30	833	31	26.9	877	95%	864	96.4%	1	1	
9月	30	845	30	28.2	855	99%	850	99.4%			
10月	30	882	31	28.5	882	100%	882	100.0%			
11月	30	859	30	28.6	858	100%	851	100.9%			1
12月	30	803	31	25.9	877	92%	871	92.2%	1		
1月	30	809	31	26.1	864	94%	864	93.6%	1		
2月	30	718	28	25.6	792	91%	796	90.2%	2		
3月	30	788	31	25.4	883	89%	888	88.7%	2		2
集計		9,882	365	27.1	10,366	95%	10,318	96%			

生活介護事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	前前年度	前前年度比	備考
4月	53	863	22	39.2	891	96.9%	892	96.7%	
5月	53	855	23	37.2	872	98%	890	96.1%	
6月	53	885	22	40.2	905	98%	882	100.3%	
7月	55	891	23	38.7	846	105%	916	97.3%	
8月	54	804	23	35.0	888	91%	859	93.6%	
9月	56	850	22	38.6	864	98%	851	99.9%	
10月	56	921	23	40.0	926	99%	905	101.8%	
11月	56	896	22	40.7	874	103%	834	107.4%	
12月	55	889	23	38.7	897	99%	866	102.7%	
1月	54	848	23	36.9	810	105%	851	99.6%	
2月	54	791	20	39.6	758	104%	758	104.4%	
3月	54	914	23	39.7	882	104%	905	101.0%	
集計		10,407	269	38.7	10,413	100%	10,409	100%	

短期入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	前前年度	前前年度比	備考		
									緊急受入れ	入所待機	
4月	6名	68	30	2.3	28	242.9%	11	618.2%	2名		
5月	7名	63	31	2.0	36	175%	9	700.0%	1名		
6月	8名	60	30	2.0	48	125%	19	315.8%	2名		
7月	7名	59	31	1.9	52	113%	47	125.5%	2名		
8月	3名	41	31	1.3	46	89%	34	120.6%	2名		
9月	6名	45	30	1.5	57	79%	28	160.7%	1名		
10月	10名	58	31	1.9	57	102%	24	241.7%	1名		
11月	7名	42	30	1.4	50	84%	51	82.4%	1名		
12月	7名	24	31	0.8	53	45%	36	66.7%			
1月	6名	20	31	0.6	54	37%	22	90.9%		1名	
2月	7名	69	29	2.4	30	230%	17	405.9%	1名	1名	
3月	9名	81	31	2.6	45	180%	20	405.0%	1名	1名	
集計		630	366	1.7	556	113%	318	198%			

重点事業方針取組結果（総括）

「地域の中で自分らしく暮らす」の理念のもと、入居されている方々がそれぞれのライフステージやライフスタイルに合わせた生活が送れるように支援を継続しました。

1. 入所支援との連携（医療・看護との連携継続）

コロナ禍が長引く中、ワクチン接種をはじめとした援助や入居者の通院などについて入所施設の看護師と連携し、対応を継続しました。このことにより、利用者の体調面の変化に早めに対応することができ、結果的に大きく健康状態を崩すような事案の発生はありませんでした。

2. 各利用者の生活の場の検討

当年度は、居所の移動を希望される方はおられませんでした。日中活動先の変更を希望された方がおられたため、関係機関と連携し、ご本人の希望される事業所との調整を実施しました。

3. 空き室の利用／新規入居者の受入れ

重点事業方針として空き室の利用を検討していましたが、年度後半から、男性2名（40代後半、50代前半）が、新たに入居されました。

ともに、家族の高齢化等により、在宅生活の維持が困難になった為、生活の場を探されていたということでした。障害支援区分が4ということで、これまで受入れを行っていた方よりも、配慮を必要とし、専門性の高い支援を必要としましたが、お2人とも、ホームでの生活に適応することができました。世話人を含めた職員に対して、障がい特性の理解に向けた研修を実施し、受け入れ体制の強化に努めました。

共同生活援助事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度	前年度比	備考	
							体験入居	新規入居
4月	10	272	30	9.1	328	82.9%	1名	
5月	11	285	31	9.2	312	91%	2名	
6月	11	304	30	10.1	316	96%	1名	1名
7月	11	310	31	10.0	315	98%	1名	
8月	10	303	31	9.8	299	101%		
9月	11	296	30	9.9	310	95%	1名	
10月	12	332	31	10.7	297	112%	2名	
11月	12	341	30	11.4	296	115%	2名	
12月	12	365	31	11.8	307	119%		2名
1月	12	362	31	11.7	307	118%		
2月	12	329	29	11.3	278	118%		
3月	12	367	31	11.8	308	119%		
集計		3,866	366	10.6	3,673	105%		

◇利用実績について◇☆令和4年4月1日現在、入居者実数9名

萩市デイサービスセンターさんみ苑(高齢通所サービス事業所)

重点事業方針取組結果(総括)

新型コロナウイルスに関する外出の規制が緩和され、人の動き、交流が活発になったためか、9月と1月に利用者と職員数名が感染し、それぞれ5日間事業を停止した。利用者、家族にも多大な迷惑をかけ、経営的にも厳しい状況となった。マスクの着用、手指の消毒、換気等、感染対策の徹底はしていたが、感染者の特定しづらかったことで、感染拡大に繋がる結果となった。

今年度は、利用者の自立支援と意欲の向上に注目し、午前中の活動の充実を図った。取り組みやすい活動や作業を準備し、個別に合わせた活動、機能訓練取り組むことができた。利用者職員に活気が出たと感じている。また、虐待防止の取り組みとして、定期的(3ヶ月に1回)に不適切ケアのチェックリストを実施し、利用者に適切な介護・支援が提供できるよう努めた。

中重度の利用者の施設入所が早まり、デイサービスは全体的に軽度化する傾向にある。利用者数が年々減少すると想定される。今後も、自立、要支援、障害がある方を積極的に受け、健康寿命と在宅生活の期間を延ばすこと、地域にある施設の役割を果たせるよう取り組む。

通所介護事業

コロナ禍の中でも、定期的にデイサービスを利用することにより、生活リズムを整え、清潔保持や楽しみや生きがいのある生活ができるよう取り組んだ。個別の生活に直結した目標を設定し、機能訓練の提供を行った。重度の利用者の施設入所が加速する中で、軽度～中度の認知症の方の割合が増加している。独居や家族が遠方の利用者も多く、家族や関係機関が少しでも安心できるような支援、生活相談員による情報発信や連絡調整を密にし、事業所としての質の向上を図った。

介護予防・日常生活支援総合事業

要支援の状態を維持できている利用者が多くみられる。「さんみ苑に来るのが楽しみ、行ける日が待ち遠しい。」という声も多く聞かれる。自宅や地域での役割、健康状態を維持する活動、機能訓練、口腔ケアを提供した。利用者同士の交流も活発で、お互い励まし合いながら、楽しく過ごしている姿をよく見かける。在宅生活での不安をやわらげ、現状維持できるよう関わることができた。

共生型生活介護事業

共生型生活介護事業も4年目となり、今年度の利用者は4名。個別の楽しみを一緒に見つけ、日頃とは違う楽しみや癒しの場になっていると感じている。職員も、障害のある方への関わりに慣れ、少しずつ専門性をもって関わることができるようになった。他事業所や相談機関と連携し、障害のある方から選ばれる事業所を目指す。

萩市介護予防教室

自立の方の利用は、年々増加傾向にある。生活自体は自立しているが、刺激の少ない生活を送っている利用者が多い。本人の意向を尊重しながら、体操や活動を提供し、地域や自宅での役割が継続できるように関わった。地域活動やサロンへの参加にもつながるよう、在宅介護支援センターと連携した。今後も、地域の中の安心できる場所、居場所づくりになるよう取り組む。

その他報告事項

○感染予防・健康管理の強化

送迎前の検温と体調確認、手洗い、アルコールによる手指と器具の消毒、定期的な換気、マスク着用の徹底を行い、感染予防を継続して行った。口腔ケア、適切な水分摂取の声掛け等を行い、脱水予防・健康維持に取り組んだ。

○委員会活動の強化

虐待防止委員会も2年目となり、今年度は、デイサービスに特化した不適切ケアチェックリストが完成した。具体的な不適切ケアを項目に取り入れ、定期的(年4回)実施した。研修で基礎的な学習を行い、チェックリストで具体的な支援を振り返ることで、職員の意識が変わってきている。

食事・入浴・活動・看護の各委員会は、日々の業務の課題を抽出し、検討⇒早急な改善⇒振り返りを実施。職員周知、連携等、チームとしての取り組みもできるようになっている。今後は、専門的な視点をもって活動に取り組めるよう、質の向上を目指す。

○人材育成

障がい者の支援の専門性を高めるため、まずは障がい者支援施設の職員との連携、情報交換等に努めた。障害者の高齢者サービスへの移行、障害者の方の居場所になる事業所を目指す。外部研修は、オンラインを中心に参加した。毎月の内部研修では、体験型研修を継続し、現場に活かせる研修になるよう取り組んだ。今後は、認知症実践者リーダー研修修了者を中心に、根拠と専門性のある認知症ケアができるよう取り組みたい。



令和4年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑実績

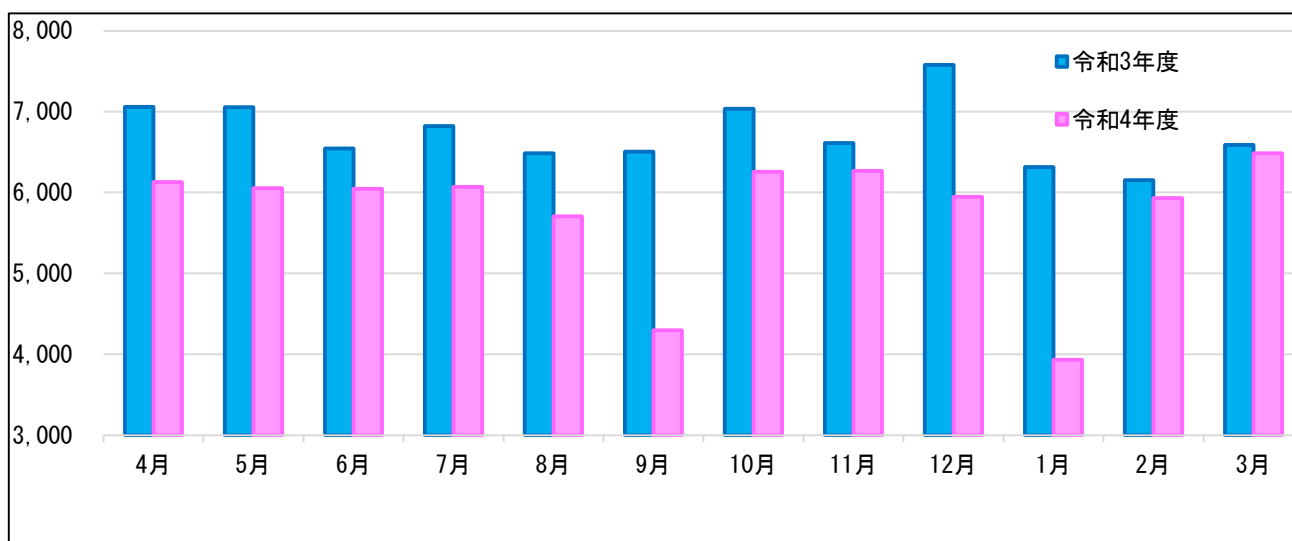
対前年度収入比較 (概算利用者負担額含)

(単位：千円) ※千円以下切捨て

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保険請求額	6,185	6,174	5,712	5,968	5,648	5,664	6,147	5,693	6,537	5,459	5,319	5,646	70,152
一部負担/公費	718	722	658	709	656	651	709	664	758	634	618	657	8,154
介護保険総額	6,903	6,896	6,370	6,677	6,304	6,315	6,856	6,357	7,295	6,093	5,937	6,303	78,306
萩市介護予防教室	51	51	54	51	54	60	45	69	93	78	84	93	783
利用者負担額	19	19	21	20	21	22	18	27	38	29	31	34	299
介護予防教室 事業総額	70	70	75	71	75	82	63	96	131	107	115	127	1,082
共生型生活介護	80	87	95	71	103	103	111	151	143	110	95	150	1,299
利用者負担額	4	3	4	3	4	5	5	8	7	6	4	8	61
共生型生活介護 事業総額	84	90	99	74	107	108	116	159	150	116	99	158	1,360

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保険請求額	5,247	5,182	5,198	5,259	4,889	3,700	5,379	5,336	5,112	3,398	5,108	5,646	59,454
一部負担/公費	609	604	606	606	569	424	620	613	592	389	589	590	6,811
介護保険総額	5,856	5,786	5,804	5,865	5,458	4,124	5,999	5,949	5,704	3,787	5,697	6,236	66,265
萩市介護予防教室	90	87	75	72	66	60	84	90	93	72	93	105	987
利用者負担額	30	29	25	24	22	20	28	30	31	24	31	35	329
介護予防教室 事業総額	120	116	100	96	88	80	112	120	124	96	124	140	1,316
共生型生活介護	144	144	136	104	153	87	137	186	113	48	105	105	1,462
利用者負担額	7	8	7	5	7	4	7	10	5	2	5	5	72
共生型生活介護 事業総額	151	152	143	109	160	91	144	196	118	50	110	110	1,534

総額	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	7,057	7,056	6,544	6,822	6,486	6,505	7,035	6,612	7,576	6,316	6,151	6,588	80,748
令和4年度	6,127	6,054	6,047	6,070	5,706	4,295	6,255	6,265	5,946	3,933	5,931	6,486	69,115



令和4年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑実績
対前年度月別利用延べ人数/稼働率比

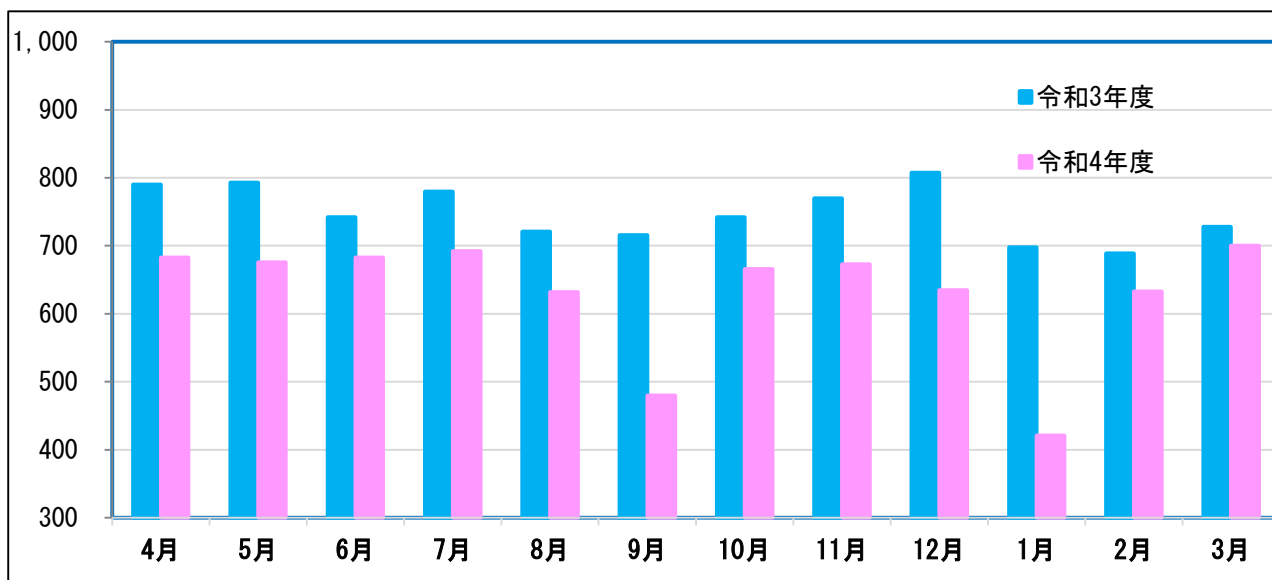
(単位：人)

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
萩市介護予防教室	16	17	18	17	18	20	15	23	31	26	28	31	260
共生型生活介護	10	11	12	9	13	13	14	19	18	14	12	19	164
介護保険通所介護/ 介護予防・日常生活支援総 事業対象	764	765	712	754	690	683	713	728	759	658	649	678	8,553
要支援1	10	4	5	9	8	9	7	7	9	8	11	12	99
要支援2	40	33	32	32	37	34	29	25	25	23	27	19	356
要介護1	62	63	68	66	45	59	66	69	73	70	71	77	789
要介護2	331	321	313	327	292	263	260	261	268	235	222	244	3,337
要介護3	167	198	176	197	203	218	248	236	239	207	229	242	2,560
要介護4	89	89	74	58	60	57	59	81	79	60	53	53	812
要介護5	47	48	44	65	38	36	39	45	61	51	29	26	529
要介護5	18	9	0	0	7	7	5	4	5	4	7	5	71
合計	790	793	742	780	721	716	742	770	808	698	689	728	8,977
稼働率(定員50)	61%	61%	57%	58%	55%	57%	55%	62%	60%	61%	57%	54%	58%
介護保険事業 稼働率	59%	59%	55%	56%	53%	53%	55%	58%	56%	57%	54%	50%	55%

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
萩市介護予防教室	30	29	25	24	22	20	28	30	31	24	31	35	329
共生型生活介護	18	18	17	13	19	11	17	23	14	6	13	13	182
介護保険通所介護/ 介護予防・日常生活支援総 事業対象	635	629	641	655	591	449	621	620	590	391	589	652	7,063
要支援1	11	13	9	7	8	8	8	8	10	4	8	10	104
要支援2	18	21	27	28	26	21	25	20	15	8	16	32	257
要介護1	68	60	72	74	66	56	59	70	58	36	56	58	733
要介護2	246	253	268	267	235	187	263	263	272	199	292	318	3,063
要介護3	204	203	189	205	169	124	168	162	158	107	151	181	2,021
要介護4	56	55	52	50	67	37	77	75	60	27	43	38	637
要介護5	28	20	19	20	15	12	17	17	13	3	12	12	188
要介護5	4	4	5	4	5	4	4	5	4	7	11	3	60
合計	683	676	683	692	632	480	666	673	635	421	633	700	7,574
稼働率(定員50)	53%	52%	53%	53%	51%	48%	51%	52%	47%	35%	53%	52%	50%
介護保険事業 稼働率	49%	48%	49%	50%	47%	45%	48%	48%	44%	33%	49%	48%	47%

利用者延べ人数

(稼働日数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	790	793	742	780	721	716	742	770	808	698	689	728	8,977
(稼働日数)	26	26	26	27	26	25	27	25	27	23	24	27	309
令和4年度	683	676	683	692	632	480	666	673	635	421	633	700	7,574
(稼働日数)	26	26	26	26	25	20	26	26	27	24	24	27	303



平均介護度

令和3年度	1.5
令和4年度	1.5

中重度ケア体制加算

(延べ利用者数での割合30%≤で加算算定)
 ※要介護3. 4. 5利用者の割合

令和3年度	19.1%	算定なし
令和4年度	14.7%	算定なし

認知症加算

(延べ利用者数での割合20%≤で加算算定)
 ※日常生活自立度Ⅲ. Ⅳ. Ⅴ利用者の割合

令和3年度	23.4%	算定あり
令和4年度	19.7%	※実利用者数割合20%

※延べ人数では、算定不可。実利用者数にて20.0%以上のため、令和5年度も算定する

解説と分析

令和4年度は、外出規制の緩和によるコロナウイルス感染拡大の影響が顕著に表れた年となった。夏休みや年末年始後の9月と1月に利用者、職員が数名感染した。県健康福祉センターへの相談・調整により、それぞれ5日間事業を停止したため、実績が大幅に低下している。

マスクの着用・検温・手指消毒等、感染予防の徹底はしていたが、発熱や症状もなく、感染者が特定しづらい状況で、一気に感染拡大した。

1月の感染拡大時には、事業継続のため、電話による、健康状態と在宅での様子の確認、訪問による抗原検査・健康観察・感染予防に関する助言等も実施した。事業は速やかに再開したが、感染の不安による利用控えもあり、通常の状態に戻るまでに数か月を要した。R4. 11月～R5. 4月「感染症または災害の発生を理由とする通所介護等の介護報酬における評価加算算定」を行ったが、経営的にはかなり苦しい状況となった。

介護保険利用者の稼働率は50%を下回る結果となった。要介護3. 4. 5の施設入所が早めに決定する傾向にあり、中重度の利用者が大幅に減ってきている。

今後もサービス内容の充実、エリアの拡大、要支援・自立・障がいがある方の利用受け入れ等、積極的に行なっていく。中重度ケア体制加算は、来年度も算定不可。認知症加算については、来年度も算定可となった。R4年度は、認知症実践者研修修了者を3名、うちリーダー研修修了者が1名で対応できたが、異動と退職が重なり、来年度はじめは、リーダー研修修了者1名のみでの対応となったため、早急に1名実践者研修を受講する予定とし、安定した加算の算定を目指す。

居宅介護支援事業所 さんみ苑

重点事業方針取組結果（総括）

多職種連携で支えなくてはいけないケースが増えており、目の前のケースから、学ぶことは多い。介護支援専門員としての経験年数も重ね、事業所内で、週1回のケース検討の内容も昨年度よりも、自身の関わりの振り返りを幅広く、深く考え、取り組むことができるようになった。令和3年度から、継続して要支援1.2の方を担当し、介護予防から要介護に重度化しないようにと努めた。今後も各自スキルアップに努め、選ばれる居宅介護支援事業所になるように精進する。

居宅介護支援事業

コロナ禍、家族に代わる支援を求められることも多かった。帰省できず遠方の家族への説明や対応、調整も、難題になることもあった。医療依存度の高い方も増えており、在宅復帰には医療機関との連携能力が向上してきている。医療、介護の場、特に訪問介護の人材不足により、支援体制も苦慮することも多かった。インフォーマルな支援の活用をと推奨されてはいるが、責任の問題等、課題は多い。

介護予防委託事業

積極的に要支援1.2の方を担当するよう努めた。
包括支援センターへの啓発、連携を図った。

その他報告事項

1. 感染症対策

感染症対策に留意しながら、本人・家族に不利益をもたらさないよう、原則訪問に努めた。市外や県外に居住し、帰りたくても帰れない家族には、情報提供等をしっかり行い、離れていても家族できる支援は協力依頼家族に代わる対応を求められることは多く、今後の課題である。

2. 経営

事業所閉鎖に伴い、紹介していただいたケースがあり、一時的に件数が増え、入院入所で、在宅生活の継続できるケースは横ばいであった。

3. カスタマーハラスメント

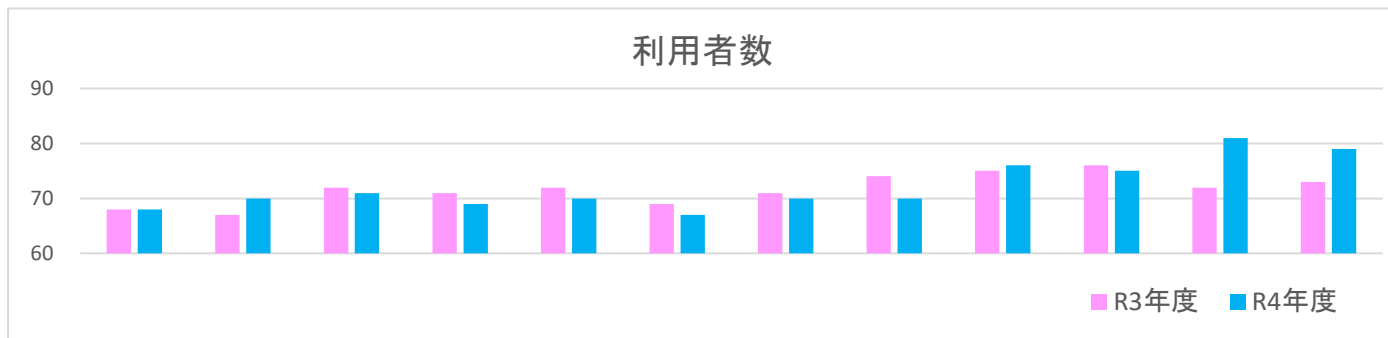
真摯に向き合い、説明責任を果たすよう努めたが、本人や家族が求めるものと合致できず、対応に苦慮したケースも多くあった。今後も、利用者、家族に寄り添い、ニーズの把握と適切な対応に努めていく。

4. 萩市の事例検討会をはじめ、多くの事例検討会に参加し、自省することも多かった。今後も、自己研鑽し、個々の強みを活かせる支援ができるよう努める。

令和5年度 居宅介護支援事業所さんみ苑実績

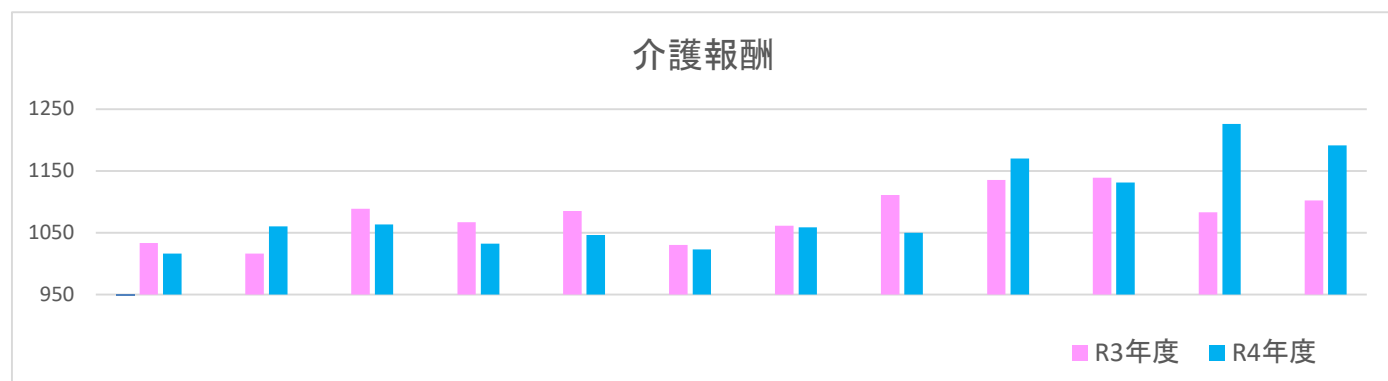
対前年度要介護利用者数比較 ※要支援含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年度	68	67	72	71	72	69	71	74	75	76	72	73	860
R4年度	68	70	71	69	70	67	70	70	76	75	81	79	866



対前年度介護報酬比較 (単位: 千円) ※予防給付含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年度	1,033	1,016	1,089	1,067	1,085	1,030	1,061	1,111	1,135	1,139	1,083	1,102	12,957
R4年度	1,016	1,060	1,063	1,032	1,046	1,023	1,059	1,050	1,170	1,131	1,226	1,191	13,072



対前年度比 介護度別人数(3月)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R3年度	7	10	25	30	8	6	4	90
R4年度	8	12	36	23	10	2	8	99

対前年度比初回加算対象件数(要介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年度	2	3	4	2	5	2	1	3	3	3	2	1	33
R4年度	1	5	2	3	2	2	4	1	10	5	7	2	44

対前年度比初回加算対象件数(要支援: 予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年度	0	0	0	2	1	1	1	0	1	1	2	0	9
R4年度	0	0	1	0	1	0	0	1	2	2	2	1	10

対前年度比介護報酬比較(要支援: 予防給付) 報酬額単位円(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年度	63216(16)	55314(14)	55314(14)	75216(16)	65265(15)	69216(16)	69072(16)	59130(15)	69072(16)	73014(17)	85838(19)	67014(17)	806,681
R4年度	67014(17)	63072(16)	73014(17)	67014(17)	76956(18)	70956(18)	67014(17)	73014(17)	86898(19)	90840(20)	74898(19)	84840(20)	895,530

解説・分析

萩市内の居宅介護支援事業所は、令和4年度、2事業所が閉鎖となった。12月以降閉鎖事業所等からの紹介で、一時的に件数の増加があったが、入院や死亡等で、件数は横並びである。他の居宅介護支援事業所においては、包括からの予防支援の担当を受託しない傾向にあるが、さんみ苑在宅介護支援センターエリア(三見山田地区)の方をはじめ、さんみ苑を指名される方の予防支援の担当は受けて行くこととする。要介護認定の結果も軽度になり、支援体制の構築が厳しくなるが、今後も選ばれる事業所になるように、スキルアップに努めて行きたい。

萩市在宅介護支援センターさんみ苑

重点事業方針取組結果（総括）

萩市事例検討会、地域在宅介護支援センター連絡協議会・勉強会、各種研修へ積極的に参加し、居宅介護支援事業所の介護支援専門員や他の在宅介護支援センター相談員との情報共有や意見交換・課題解決等も円滑に行うことができています。地域の把握、課題の解決にも、地域と連携し取り組むことができた。医療との連携については、病院相談員と入退院時に必要な情報共有を行い、本人家族が困らないよう、在宅の調整を行うことができています。今後は、地域の方と連携し、住み慣れた地域で住み続けられるような地域づくりが課題となる。

総合相談支援事業（地域包括支援センターサテライト業務）

1. 認知症予防

地域から認知症の方の対応、関わりに関する相談が数件あり、対応している。困難ケースについては、包括支援センター職員と同行し、検討・対応することができている。今後は、地域住民へ、認知症への理解を深めてもらうよう啓発を行う。

2. 閉じこもり・詐欺・虐待防止を目的とした訪問活動

地域とのかかわりが少ない、閉じこもりがちなケースは、繰り返し訪問し、サービスや社会資源等の説明を行った。利用につながったケースも数件あった。

3. 処遇困難ケース

リスクを共有し、重点的な訪問活動・関係者との連携し、対応した。

4. 介護保険制度に対する支援

介護保険サービス申請し、認定が出た後も、サービスを利用につなげていないケースに関しては、サービスの説明を行いながら、必要に応じて有効期限が切れないよう調整・支援している。

5. 啓発活動

三見・山田地区に向けて、さんみ苑だよりを、毎月1回継続して発行し、好評を得ている。地域サロンへ定期的に参加し、住民の相談や課題を聞き取ることもできている。今年度は、住民から介護保険制度についての問い合わせがあり、説明、対応している。引き続き、在宅介護支援センターの業務内容については、啓発の必要性を感じている。

6. 各民生委員、福祉員との連携強化

民生委員との情報共有を積極的に行い、同行訪問するケースも増えてきている。対応が困難なケースについては、包括支援センターへ相談し、連携することができている。今後は、福祉員との連携も密にしていき、地域の把握ができるよう努める。

7. 職員のスキルアップ

今年度は、山口県在宅介護支援センター主催の、相談員の基礎研修に参加し、面接や傾聴、地域や関係機関との連携の重要性を学ぶことができた。

萩市が行う事例検討会や事業所内のケース検討にも積極的に参加し、アセスメントや課題解決に向けての取り組みを学ぶことができている。検討会に継続的に参加することで、自らの課題に気づくことができた。今後も、研修や検討会に積極的に参加し、相談員としての質を向上に取り組む。

令和4年度萩市在宅介護支援センターさんみ苑 実績

相談実績累計

	相談形態別累計							その他	夜間	台帳登録者数
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計	調整回数	(再掲)	実数
R3	485	8	676	7	23	467	1666	0	5	2
R4	617	9	506	9	18	622	1781	42	21	2

相談内容累計

	生活支援・予防事業										介護保険サービス			医療			認知							
	配食	外出支援	乾燥消毒	寝具類洗濯	ヘルプサービス	生活援助ホーム	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援	シヨートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関	その他
R3	203	0	0	1	6	7	5	1	185	1	37	9	2	77	2	1	5	19	3	0	0	0	0	0
実人数	37	0	0	1	4	4	4	1	102	1	26	8	2	42	2	1	4	7	3	0	0	0	0	0
R4	272	0	0	0	2	21	15	2	200	15	33	43	11	93	21	18	35	27	0	1	6	0	1	6
実人数	42	0	0	0	2	10	14	2	108	11	22	27	7	46	15	14	24	15	0	1	5	0	1	5

	精神		家族・親族		関係		虐待		成年後見			その他			合計				
	精神疾患	アルコール依存	閉じこもり	その他	親族間のトラブル	地域とのトラブル	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者		その他	権利擁護	実態把握	その他
R3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	61	370	1000
実人数	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	60	170	484
R4	0	0	1	4	1	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	72	332	1222
実人数	0	0	1	2	1	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	64	131	569

対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
R3	205	113	22	172	0	3	58	13	0	1	199	790	407	58
R4	816	290	315	381	4	1	63	17	0	0	20	1907	375	63

実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
R3	5	27	33	17	23	20	19	12	10	12	13	19	210
R4	2	13	15	20	22	19	17	17	13	10	12	25	195

求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
R3	3	23	320	222	0	27	25	163	783
R4	0	0	824	186	0	97	10	32	1149

地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事
R3	46	2	17	0	1
R4	55	1	19	0	0

解説と分析

相談実績累計：電話対応、訪問は通常通り。調整回数は増加

相談内容累積：配食サービスや緊急通報・介護保険に関する相談が増加

対応実績累計：相談、情報提供、家庭訪問等も増加

実態把握加算の実績：実態把握は昨年より減少。来年度はより多くの新規の訪問に努める。

求めている支援類型：社会資源の紹介が0になっているが、制度説明確認の分類でカウントしている。

地域活動：昨年よりコロナが落ち着き、サロンが頻りに開催されるようになり積極的に参加した。

地域活動に参加することで、相談からサービスに繋げることも出来ている。地域からの相談数も増えている。困難ケースに関しては関係機関と連絡を取りあい、対応に努めていく。昨年に比べ記録をすることが出来ている。しかしたまに記録が漏れていることもあるため、些細なことでも記録を残していくように気をつける。他の在宅介護支援センターの相談員と連携する。勉強会や研修等に積極的に参加し、業務の理解を深め、スキルアップにも努める。